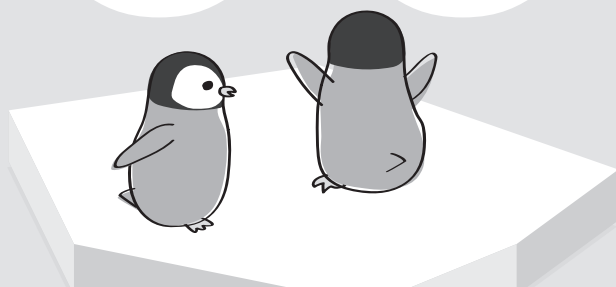


日商簿記2級

ステップアップ問題集 工業簿記



解答用紙

大原出版

本気になったら
大原

CONTENTS

1	原価の分類	P.2	51	単純総合原価計算	P.31
2	原価の分類	P.2	52	単純総合原価計算	P.31
3	原価の分類	P.2	53	単純総合原価計算	P.31
4	工業簿記一巡	P.3	54	単純総合原価計算	P.32
5	工業簿記一巡(製品の販売)	P.4	55	単純総合原価計算(損益計算書作成)	P.32
6	工業簿記一巡(月次決算)	P.4	56	単純総合原価計算(減損)	P.33
7	工業簿記一巡	P.4	57	単純総合原価計算(減損)	P.34
8	材料費会計(材料の購入)	P.6	58	単純総合原価計算(減損)	P.34
9	材料費会計(実際消費価格)	P.6	59	単純総合原価計算(仕損)	P.35
10	材料費会計(実際消費価格)	P.7	60	工程別総合原価計算	P.36
11	材料費会計(予定消費価格)	P.7	61	工程別総合原価計算(半製品)	P.37
12	材料費会計(材料副費、残材戻入)	P.8	62	工程別総合原価計算(仕損)	P.38
13	材料費会計(材料副費、予定消費価格)	P.8	63	組別総合原価計算	P.39
14	労務費会計(二勤定制)	P.9	64	組別総合原価計算	P.40
15	労務費会計(一勤定制)	P.9	65	組別総合原価計算	P.40
16	労務費会計(消費額の計算)	P.10	66	等級別総合原価計算	P.41
17	労務費会計(予定消費賃率)	P.11	67	等級別総合原価計算	P.41
18	労務費会計(予定消費賃率)	P.12	68	等級別総合原価計算	P.42
19	労務費会計(消費賃率の計算)	P.12	69	等級別総合原価計算	P.42
20	労務費会計(予定消費賃率)	P.12	70	標準原価計算	P.43
21	経費会計(経費の計算)	P.13	71	標準原価計算(仕掛品勘定の記入)	P.43
22	経費会計(経費の記帳)	P.13	72	標準原価計算(仕掛品勘定の記入)	P.44
23	経費会計(経費の記帳)	P.13	73	標準原価計算(仕掛品勘定・製品勘定の記入)	P.45
24	製造間接費会計(実際配賦)	P.14	74	標準原価計算(差異分析)	P.45
25	製造間接費会計(予定配賦)	P.14	75	標準原価計算(差異分析)	P.46
26	製造間接費会計(予定配賦)	P.14	76	標準原価計算(差異分析)	P.46
27	製造間接費会計(予定配賦)	P.15	77	標準原価計算(差異分析)	P.46
28	製造間接費会計(原因別分析・固定予算)	P.15	78	標準原価計算(差異分析)	P.47
29	製造間接費会計(原因別分析・公式法変動予算)	P.16	79	標準原価計算(差異分析)	P.47
30	製造間接費会計(操業水準)	P.16	80	標準個別原価計算(仕掛品勘定の記入・材料購入価格差異)	P.48
31	製造間接費会計(原因別分析・公式法変動予算)	P.17	81	標準原価計算における仕訳	P.48
32	部門別計算(実際の第1次集計)	P.17	82	損益分岐分析	P.49
33	部門別計算(実際の第2次集計・直接配賦法)	P.18	83	安全率・損益分岐点比率	P.49
34	部門別計算(記帳体系)	P.19	84	原価分解	P.49
35	部門別計算(実際の第2次集計・相互配賦法)	P.20	85	損益分岐分析	P.49
36	部門別計算(勘定記入)	P.20	86	損益分岐分析	P.49
37	部門別計算(補助部門費の予定配賦)	P.21	87	直接原価計算(損益計算書作成・固定費調整)	P.50
38	部門別計算(製造部の予定配賦率・配賦額の計算)	P.21	88	直接原価計算(損益計算書作成・損益分岐分析)	P.51
39	個別原価計算	P.22	89	直接原価計算(損益計算書作成・固定費調整)	P.52
40	個別原価計算(仕損)	P.22	90	直接原価計算(損益計算書作成・固定費調整)	P.53
41	個別原価計算	P.23	91	直接原価計算(3期間・損益計算書作成)	P.54
42	部門別個別原価計算	P.23	92	直接原価計算(3期間・損益計算書作成)	P.55
43	個別原価計算	P.24	93	工場会計の独立	P.56
44	個別原価計算	P.25	94	工場会計の独立(内部販売)	P.56
45	財務諸表	P.26			
46	財務諸表(製造原価報告書)	P.27			
47	財務諸表(製造原価報告書)	P.28			
48	財務諸表(損益計算書)	P.28			
49	単純総合原価計算	P.29			
50	単純総合原価計算	P.30			

① 原価の分類

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.126

1. 営業用自動車の減価償却費 ()
2. 工場の電力料 ()
3. 本社建物の減価償却費 ()
4. 製品製造のための材料費 ()
5. 本社の事務用消耗品費 ()
6. 営業所従業員の給料 ()

② 原価の分類

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.126

製造直接費 円

製造間接費 円

製造原価 円

総原価 円

③ 原価の分類

テキスト▶P.5

解答・解説▶P.126

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	
13		14		15	
16		17		18	

HINT

各項目が、どの活動（製造活動、販売活動、管理活動）で発生したか、またそれぞれの活動は、主にどの場所（工場、営業所、本社）で発生するかを考えよう。なお、非原価項目は製造原価、販売費、一般管理費以外の金融上の費用や異常な原因で発生した費用などである。

4 工業簿記一巡

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

材 料

買掛金	仕掛品
	製造間接費

賃金給料

預り金	仕掛品
現金	製造間接費

経 費

現金	仕掛品
	製造間接費

製造間接費

材 料	仕 掛 品
賃 金 給 料	
経 費	

仕 掛 品

材 料	製 品
賃 金 給 料	
経 費	
製 造 間 接 費	

製 品

仕 掛 品	
-------	--

⑤ 工業簿記一巡（製品の販売）

テキスト▶P.10

解答・解説▶P.127

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

⑥ 工業簿記一巡（月次決算）

テキスト▶P.10

解答・解説▶P.128

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				

⑦ 工業簿記一巡

材料の購入および消費に関する仕訳

テキスト▶P.11

解答・解説▶P.128

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

賃金給料の支払いおよび消費に関する仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

経費の支払いおよび消費に関する仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

製造間接費の配賦に関する仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

製品の完成に関する仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

製品の販売（掛売上）に関する仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

月次決算（収益、費用の振り替えおよび営業利益の振り替え）に関する仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

 HINT

問題資料の勘定より、工業簿記の勘定の流れをイメージして各取引の仕訳を考えよう。

⑧ 材料費会計（材料の購入）

テキスト▶P.13

解答・解説▶P.129

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				

⑨ 材料費会計（実際消費価格）

テキスト▶P.16

解答・解説▶P.129

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5日				
11日				
13日				
19日				
30日				
30日				

材 料

9 / 1 前月繰越	85,400	

仕 掛 品

製造間接費

⑩ 材料費会計（実際消費価格）

テキスト▶P.16

解答・解説▶P.130

	借方科目	金額	貸方科目	金額
7日				
15日				
24日				

⑪ 材料費会計（予定消費価格）

テキスト▶P.16

解答・解説▶P.131

	借方科目	金額	貸方科目	金額
6日				
8日				
18日				
21日				
25日				
31日				
31日				
31日				

材 料

7/1 前月繰越	

材料消費価格差異

仕 掛 品	

製造間接費

--	--

⑫ 材料費会計（材料副費、残材戻入）

問1

テキスト▶P.17

解答・解説▶P.133

借方科目	金額	貸方科目	金額

問2

	材	料	(単位：円)
月初有高	58,000	直接材料費	()
当月購入高	()	間接材料費	()
		棚卸減耗損	()
		月末有高	()
	<u>()</u>		<u>()</u>



HINT

10月10日の購入額の計算において、内部材料副費は次のように計算する。

内部材料副費＝購入代価（当月購入）×4%

⑬ 材料費会計（材料副費、予定消費価格）

問1 各部品の当月購入原価（総額）

テキスト▶P.18

解答・解説▶P.133

部 品 X	部 品 Y	部 品 Z
円	円	円

問2 材料勘定の（ ）内に金額を記入しなさい。

	材 料	(単位：円)
当月購入高	当月消費高	()
	消費価格差異	()
	月末有高	()
	<u>()</u>	<u>()</u>

HINT

材料費会計の流れを確認し、各部品ごとに購入、消費、差異に関する資料のまとめを行うこと。また、材料勘定の記入については、各部品ごと別々に記入するのではなく、合計額で記入する点に注意すること。

⑭ 労務費会計（二勘定制）

テキスト▶P.21

解答・解説▶P.135

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1日				
25日				
31日				
31日				

賃金給料

未払賃金給料

	8 / 1 前月繰越	60,000

⑮ 労務費会計（一勘定制）

テキスト▶P.21

解答・解説▶P.136

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1日				
25日				
30日				
30日				

賃金給料

	9/1 前月繰越	45,000

仕掛品

製造間接費

⑩ 労務費会計（消費額の計算）

テキスト▶P.24

解答・解説▶P.137

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

賃金給料

未払賃金給料

	前月繰越	1,500,000

仕 掛 品

--	--

製 造 間 接 費

--	--

⑰ 労務費会計（予定消費賃率）

テキスト▶P.24

解答・解説▶P.138

①	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				
④				

賃 金 給 料

--	--

未払賃金給料

	前 月 繰 越 460,000
--	-----------------

賃 率 差 異

--	--

18 労務費会計（予定消費賃率）

テキスト▶P.24

解答・解説▶P.139

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)	①			
	②			
	③			

19 労務費会計（消費賃率の計算）

テキスト▶P.25

解答・解説▶P.140

問1 円

問2 円

問3 円



HINT

消費賃率は、下記に示す算式の分子（賃率算定の基礎となる労務費）をどこまでの範囲にするかがポイントである。なお、本問の場合は各問ごとに範囲が示されている。

$$\text{消費賃率} = \frac{\text{賃率算定の基礎となる労務費}}{\text{就業時間}}$$

20 労務費会計（予定消費賃率）

問1

テキスト▶P.26

解答・解説▶P.141

借方科目	金額	貸方科目	金額

問2

賃金給料

(単位：円)

当月支給総額 ()	前月末未払額 ()
当月末未払額 ()	直接労務費 ()
	間接労務費 ()
	賃率差異 ()
<hr/>	<hr/>
()	()

 HINT

1. 労務費会計の流れ（支払い、消費、差異計算）に注意すること。
2. 消費（直接労務費・間接労務費）の計算と当月末未払額の計算での時間の把握がポイントである。
 - (1) 直接労務費→直接作業時間
 - (2) 間接労務費→間接作業時間、手待時間（就業時間－実働時間）
 - (3) 当月末未払額→出勤票の6/21～6/30までの作業時間

21 経費会計（経費の計算）

テキスト▶P.29 解答・解説▶P.142

事務用消耗品費	<input type="text"/>	円	保 険 料	<input type="text"/>	円
電 力 料	<input type="text"/>	円	修 繕 料	<input type="text"/>	円
外注加工賃	<input type="text"/>	円	棚卸減耗損	<input type="text"/>	円

22 経費会計（経費の記帳）

テキスト▶P.30 解答・解説▶P.142

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

23 経費会計（経費の記帳）

テキスト▶P.30 解答・解説▶P.142

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

24 製造間接費会計（実際配賦）

テキスト▶P.34

解答・解説▶P.143

各製品に対する実際配賦額

	製 品 A	製 品 B	製 品 C
(1) 直接労務費基準	円	円	円
(2) 機械作業時間基準	円	円	円
(3) 生産量基準	円	円	円

実際配賦の仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

25 製造間接費会計（予定配賦）

テキスト▶P.34

解答・解説▶P.144

予定配賦率 円/時間

	製 品 A	製 品 B	合 計
予定配賦額	円	円	円

予定配賦の仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

製造間接費差異の仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

26 製造間接費会計（予定配賦）

テキスト▶P.34

解答・解説▶P.144

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

製造間接費		(単位：円)
材 料 ()	仕 掛 品 ()	
賃 金・給 料 ()	製造間接費差異 ()	
諸 勘 定 365,000		
()	()	
=====	=====	

27 製造間接費会計（予定配賦）

テキスト▶P.35 解答・解説▶P.145

製造間接費		(単位：円)
材 料 ()	仕 掛 品 ()	
賃 金 給 料 ()		
修 繕 料 ()		
電 力 料 ()		
棚 卸 減 耗 損 ()		
減 価 償 却 費 ()		
製造間接費差異 ()		
()	()	
=====	=====	

HINT

項目（材料、賃金給料など）ごとに資料を集計し、消費額を計算する。間接材料費、間接労務費については、その消費額から製造直接費を差し引いて求める。

28 製造間接費会計（原因別分析・固定予算）

テキスト▶P.39 解答・解説▶P.146

総 差 異 円 ()

予 算 差 異 円 ()

操 業 度 差 異 円 ()

(注) () 内には、借方差異または貸方差異を記入すること。

29 製造間接費会計（原因別分析・公式法変動予算）

テキスト▶P.39 解答・解説▶P.146

総差異 円 ()

予算差異 円 () 操業度差異 円 ()

(注) () 内には、借方差異または貸方差異を記入すること。

30 製造間接費会計（操業水準）

テキスト▶P.39 解答・解説▶P.147

(1) 実際の生産能力を選択した場合

予定配賦率 円/時間

製造間接費		(単位：円)
実際発生額 ()	予定配賦額 ()	
	配賦差異 ()	
<u>()</u>	<u>()</u>	

(2) 期待実際操業度を選択した場合

予定配賦率 円/時間

製造間接費		(単位：円)
実際発生額 ()	予定配賦額 ()	
配賦差異 ()		
<u>()</u>	<u>()</u>	

HINT

製造間接費の予定配賦率は次のように計算する。

$$\text{予定配賦率} = \frac{\text{製造間接費予算額}}{\text{基準操業度}} \longrightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{実際の生産能力} \quad 144,000\text{時間} \\ \text{または} \\ \text{期待実際操業度} \quad 120,000\text{時間} \end{array} \right.$$

また、基準操業度が異なれば、予定配賦率および予定配賦額も異なることを確認しよう。

31 製造間接費会計（原因別分析・公式法変動予算）

テキスト▶P.40 解答・解説▶P.148

(1) 予定配賦した場合

予定配賦率 円/時間

製造間接費		(単位：円)	
間接材料費 ()	予定配賦額 ()		
間接労務費 ()	予算差異 ()		
間接経費 ()	操業度差異 ()		
<u>()</u>	<u>()</u>		

(2) 実際配賦した場合

実際配賦率 円/時間

製造間接費		(単位：円)	
間接材料費 ()	実際配賦額 ()		
間接労務費 ()	/		
間接経費 ()			
<u>()</u>		<u>()</u>	

HINT

実際配賦する場合は、製造間接費実際発生額（製造間接費勘定の借方）を各製品に配賦する。

32 部門別計算（実際の第1次集計）

テキスト▶P.44 解答・解説▶P.149

部門費集計表					(単位：円)	
費目	金額	製造部門		補助部門		
		第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門	
部門個別費						
間接材料費						
間接労務費						
機械減価償却費						
部門共通費						
建物減価償却費						
電力料						
機械保険料						
雑務工賃金						
部門費合計						

借方科目	金額	貸方科目	金額

③ 部門別計算（実際の第2次集計・直接配賦法）

テキスト▶P.44 解答・解説▶P.150

直接配賦法		部門別配賦表					(単位：円)		
費目	配賦基準	金額	製造部門		補助部門				
			第1製造部	第2製造部	動力部	修繕部	工場事務部		
部門費合計									
動力部費	機械馬力数 × 運転時間								
修繕部費	修繕時間								
工場事務部費	従業員数								
配賦額合計									
製造部門費									

借方科目	金額	貸方科目	金額

34 部門別計算（記帳体系）

テキスト▶P.45 解答・解説▶P.151

解答用紙

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

動力部費

製造間接費	甲製造部費
	乙製造部費

修繕部費

製造間接費	甲製造部費
	乙製造部費

工場事務部費

製造間接費	甲製造部費
	乙製造部費

甲製造部費

製造間接費	仕掛品
動力部費	
修繕部費	
工場事務部費	
製造部門費差異	

乙製造部費

製造間接費	仕掛品
動力部費	製造部門費差異
修繕部費	
工場事務部費	

35 部門別計算（実際の第2次集計・相互配賦法）

テキスト▶P.45 解答・解説▶P.153

費目	金額	製造部門		補助部門		
		第1製造部	第2製造部	保全部	材料倉庫部	工場事務部
部門個別費	1,900,000	750,000	600,000	117,500	195,000	237,500
福利施設負担額	350,000					
建物減価償却費	250,000					
部門費合計	2,500,000					
第1次配賦						
工場事務部費						
材料倉庫部費						
保全部費						
第2次配賦						
材料倉庫部費						
保全部費						
製造部門費						

36 部門別計算（勘定記入）

テキスト▶P.46 解答・解説▶P.154

<p style="text-align: center;">動力部費 (単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">製造間接費 ()</td> <td style="width: 50%;">第1製造部費 ()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">()</td> <td style="border-top: 1px solid black;">()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 3px double black;">()</td> <td style="border-top: 3px double black;">()</td> </tr> </table>	製造間接費 ()	第1製造部費 ()	()	()	()	()	<p style="text-align: center;">第1製造部費 (単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">製造間接費 ()</td> <td style="width: 50%;">仕掛品 ()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">動力部費 ()</td> <td style="border-top: 1px solid black;">原価差異 ()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">工場事務部費 ()</td> <td style="border-top: 1px solid black;">()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 3px double black;">()</td> <td style="border-top: 3px double black;">()</td> </tr> </table>	製造間接費 ()	仕掛品 ()	動力部費 ()	原価差異 ()	工場事務部費 ()	()	()	()		
製造間接費 ()	第1製造部費 ()																
()	()																
()	()																
製造間接費 ()	仕掛品 ()																
動力部費 ()	原価差異 ()																
工場事務部費 ()	()																
()	()																
<p style="text-align: center;">工場事務部費 (単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">製造間接費 ()</td> <td style="width: 50%;">第1製造部費 ()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">()</td> <td style="border-top: 1px solid black;">()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 3px double black;">()</td> <td style="border-top: 3px double black;">()</td> </tr> </table>	製造間接費 ()	第1製造部費 ()	()	()	()	()	<p style="text-align: center;">第2製造部費 (単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">製造間接費 ()</td> <td style="width: 50%;">仕掛品 ()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">動力部費 ()</td> <td style="border-top: 1px solid black;">()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">工場事務部費 ()</td> <td style="border-top: 1px solid black;">()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">原価差異 ()</td> <td style="border-top: 1px solid black;">()</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 3px double black;">()</td> <td style="border-top: 3px double black;">()</td> </tr> </table>	製造間接費 ()	仕掛品 ()	動力部費 ()	()	工場事務部費 ()	()	原価差異 ()	()	()	()
製造間接費 ()	第1製造部費 ()																
()	()																
()	()																
製造間接費 ()	仕掛品 ()																
動力部費 ()	()																
工場事務部費 ()	()																
原価差異 ()	()																
()	()																



部門別計算の記帳体系をイメージし、各手続きの計算、仕訳を考えよう。

37 部門別計算（補助部門費の予定配賦）

テキスト▶P.46 解答・解説▶P.155

(A) 実際配賦を行う場合

修繕部費		(単位：円)
実際発生額 ()	第1製造部への配賦額 ()	
	第2製造部への配賦額 ()	

(B) 予定配賦を行う場合

修繕部費		(単位：円)
実際発生額 ()	第1製造部への配賦額 ()	
	第2製造部への配賦額 ()	
	原価差異 ()	

 HINT

1. 補助部門の実際配賦は、補助部門費勘定の借方に集計された実際発生額に基づき、実際配賦率を計算し、実際配賦基準数値に乘じることにより関係部門に配賦する。
2. 補助部門の予定配賦は、補助部門の予算に基づき、予定配賦率を計算し、実際配賦基準数値に乘じることにより関係部門に配賦する。

38 部門別計算（製造部の予定配賦率・配賦額の計算）

テキスト▶P.47 解答・解説▶P.156

(1)	万円
(2)	万円
(3)	円／時間
(4)	万円
(5)	万円

 HINT

製造部門別の製造間接費予算額は、予算の数値をベースにして、部門別配賦表を各自で作成することにより求めることができる。

39 個別原価計算

テキスト▶P.52 解答・解説▶P.157

仕 掛 品		(単位：円)	
月初有高	()	当月完成高	()
当月製造費用		月末有高	()
直接材料費	()	/	
直接労務費	()		
製造間接費	()		
	()		
	()		()
製 品		(単位：円)	
月初有高	()	売上原価	()
当月完成高	()	月末有高	()
	()		()
	()		()

40 個別原価計算 (仕 損)

テキスト▶P.52 解答・解説▶P.159

指図書別原価計算表				(単位：円)
摘 要	No.102	No.103	No.102-1	
直接材料費	200,000	128,000	20,000	
直接労務費	300,000	160,000	36,000	
製造間接費	340,000	80,000	14,000	
合 計	840,000	368,000	70,000	
仕 損 費	()	()	()	
製 造 原 価	()	()	()	
備 考	()	完 成	()	

41 個別原価計算

テキスト▶P.53 解答・解説▶P.159

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

42 部門別個別原価計算

テキスト▶P.53 解答・解説▶P.160

仕 掛 品		(単位：円)	
月初有高 ()	当月完成高 ()		
直接材料費 ()	月末有高 ()		
直接労務費 ()			
切削部費 ()			
組立部費 ()			
()			
製 品		(単位：円)	
当月完成高 ()	売上原価 ()		
	月末有高 ()		
()			

 HINT

製造指図書別の原価計算表を作成し、各費用の合計額が仕掛品勘定の借方金額となる。また、10月末現在で完成している製造指図書の原価合計が完成品原価となり、未完成となっている製造指図書の原価合計が月末仕掛品原価となる。

43 個別原価計算

テキスト▶P.54

解答・解説▶P.162

仕 掛 品		(単位：円)	
6/1 月初有高	()	6/30 当月完成高	()
30 直接材料費	()	〃 月末有高	()
〃 直接労務費	()		
〃 製造間接費	()		
	()		()
	<u> </u>		<u> </u>

製 品		(単位：円)	
6/1 月初有高	()	6/30 売上原価	()
30 当月完成高	()	〃 月末有高	()
	()		()
	<u> </u>		<u> </u>

HINT

指図書別の原価計算表をしっかりと作成しよう。なお本問の場合、月初製品原価、月初仕掛品原価の把握がポイントである。

44 個別原価計算

テキスト▶P.54

解答・解説▶P.163

売掛金			
月初有高	100,000	() ()	
() ()		当座預金	474,000
		月末有高	120,000
材料			
月初有高	80,000	() ()	
買掛金	204,000	() ()	
		月末有高	60,000
仕掛品			
月初有高	60,000	() ()	
() ()		月末有高	180,000
賃金給料	140,000	() ()	
() ()			
製品			
月初有高	120,000	() ()	
() ()		月末有高	40,000
売上原価	20,000		
製造間接費			
() ()		() ()	
賃金給料	30,000		
諸口	26,000		
売上			
() ()		() ()	
売上原価			
() ()		製品	20,000



HINT

工業簿記一巡を考え、各取引の仕訳をイメージして解答しよう。

45 財務諸表

テキスト▶P.58 解答・解説▶P.164

製造原価報告書

I 直接材料費		()
II 直接労務費		()
III 製造間接費		
間接材料費	()	
間接労務費	()	
間接経費	()	
合計	()	
製造間接費差異	()	()
当期総製造費用		()
期首仕掛品棚卸高		()
合計		()
期末仕掛品棚卸高		()
当期製品製造原価		()

損益計算書

I 売上高		()
II 売上原価		
1. 期首製品棚卸高	()	
2. 当期製品製造原価	()	
合計	()	
3. 期末製品棚卸高	()	
差引	()	
4. 原価差異	()	()
売上総利益		()
III 販売費および一般管理費		
1. 販売費	()	
2. 一般管理費	()	()
営業利益		()

46 財務諸表（製造原価報告書）

テキスト▶P.59

解答・解説▶P.166

仕 掛 品		(単位：万円)	
期首有高	()	当期完成高	()
直接材料費	()	期末有高	()
直接労務費	()		
製造間接費	()		
	<u>()</u>		<u>()</u>
	<u><u>()</u></u>		<u><u>()</u></u>

製造間接費		(単位：万円)	
間接材料費	()	予定配賦額	()
間接労務費	()	配賦差異	()
間接経費	()		
	<u>()</u>		<u>()</u>
	<u><u>()</u></u>		<u><u>()</u></u>

製造原価報告書 (単位：万円)

I 直接材料費	()	
II 直接労務費	()	
III 製造間接費		
間接材料費	()	
間接労務費	()	
間接経費	()	
合 計	<u>()</u>	
製造間接費差異	<u>()</u>	<u>()</u>
当期総製造費用		()
期首仕掛品棚卸高		<u>()</u>
合 計		()
期末仕掛品棚卸高		<u>()</u>
当期製品製造原価		<u><u>()</u></u>

HINT

費目ごとに消費額の計算を行う。その際、製造直接費と製造間接費の区別を行いながら資料をまとめるとよい。また、製造間接費実際発生額の集計においては、補助材料費と間接工賃金を加算する点に注意すること。

47 財務諸表（製造原価報告書）

テキスト▶P.59

解答・解説▶P.167

製造原価報告書

(単位：万円)

I 材 料 費	()
II 労 務 費	()
III 経 費	()
製造間接費差異	()
当期総製造費用	()
期首仕掛品棚卸高	()
合 計	()
期末仕掛品棚卸高	()
当期製品製造原価	()

48 財務諸表（損益計算書）

テキスト▶P.60

解答・解説▶P.168

仕 掛 品

(単位：万円)

期首有高 ()	当期完成高 ()
直接材料費 ()	期末有高 ()
直接労務費 ()	
製造間接費 ()	
()	()

製造間接費

(単位：万円)

実際発生額 ()	予定配賦額 ()
配賦差異 ()	
()	()

損益計算書

(単位：万円)

I 売上高		24,000	
II 売上原価			
1. 期首製品棚卸高	()		
2. 当期製品製造原価	()		
合計	()		
3. 期末製品棚卸高	()		
差引	()		
4. 原価差異	()	()	
売上総利益		()	
III 販売費および一般管理費			
1. 販売費	()		
2. 一般管理費	()	()	
営業利益		()	

 HINT

次の手順で解答する。

1. 製造原価については、費目ごとに消費額の計算をする。
2. 仕掛品勘定の記入を行い、完成品原価の計算をする。
3. 製品勘定をイメージしながら損益計算書の売上原価を計算する。その際、原価差異の加減（借方差異は加算、貸方差異は減算）に注意すること。
4. 販売費と一般管理費を区別する際は次の点に注意すること。
 - (1) 販売費→営業所関係の費用
 - (2) 一般管理費→本社関係の費用

④9 単純総合原価計算

テキスト▶P.63

解答・解説▶P.170

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

加工費		仕掛品	
		前月繰越	25,000

総合原価計算表				(単位：円)
摘要	直接材料費	加工費	合計	
月初仕掛品	12,000	13,000	25,000	
当月投入				
合計				
月末仕掛品				
完成品				

完成品単位原価 @ 円

50 単純総合原価計算

テキスト▶P.64 解答・解説▶P.170

加工費		(単位：万円)	
賃金・給料消費額	()	予定配賦額	()
間接材料費	()	配賦差異	()
間接経費	()		
	()		()

仕掛品		(単位：万円)	
月初有高	()	当月完成高	()
原料費	()	月末有高	()
加工費	()		
	()		()

HINT

当月製造費用の把握がポイントであり、次のように計算する。

1. 原料費→消費量×消費価格
2. 加工費予定配賦額→実際操業度×予定配賦率

なお、加工費予定配賦額、配賦差異の計算は製造間接費の予定配賦と同様である。

51 単純総合原価計算

①

テキスト▶P.68 解答・解説▶P.171

平均法	総合原価計算表			(単位：円)
摘 要	直接材料費	加工費	合 計	
月初仕掛品	88,000	119,000	207,000	
当 月 投 入	612,000	1,411,000	2,023,000	
合 計	700,000	1,530,000	2,230,000	
月末仕掛品				
完 成 品				
			完成品単位原価 @ 円	

②

仕 掛 品		(単位：円)
前 月 繰 越	()	製 品 ()
材 料	()	次 月 繰 越 ()
加 工 費	()	
	()	()

52 単純総合原価計算

テキスト▶P.68 解答・解説▶P.173

月末仕掛品原価 円

完成品総合原価 円

完成品単位原価 @ 円

53 単純総合原価計算

テキスト▶P.68 解答・解説▶P.173

先入先出法	総合原価計算表				(単位：円)
摘 要	A 材料費	B 材料費	加工費	合 計	
月初仕掛品					
当 月 投 入					
合 計					
月末仕掛品					
完 成 品					
完成品単位原価	@	@	@	@	

54 単純総合原価計算

テキスト▶P.69 解答・解説▶P.174

仕 掛 品 (単位：円)

月初有 高：		当月完成高：	
原 料 費	452,000	原 料 費	()
加 工 費	86,200	加 工 費	()
小 計	538,200	小 計	()
当月製造費用：		月末有 高：	
原 料 費	()	原 料 費	()
加 工 費	()	加 工 費	()
小 計	()	小 計	()
	()		()
	()		()

HINT

当月製造費用（当月投入額）の把握がポイントである。

1. 原料費→月初有 高+当月仕入高-月末有 高
2. 加工費予定配賦額→実際操業度×予定配賦率

55 単純総合原価計算（損益計算書作成）

テキスト▶P.69 解答・解説▶P.176

総 合 原 価 計 算 表				
先入先出法	(単位：円)			
摘 要	A 材 料 費	B 材 料 費	加 工 費	合 計
月初仕掛品	29,700	—	6,600	36,300
当月投入	135,000	32,400	83,700	251,100
合 計				
月末仕掛品				
完 成 品				
完成品単位原価	@	@	@	@

月次損益計算書 (単位：円)

I 売上高				()
II 売上原価				
1. 月初製品棚卸高	26,700			
2. 当月製品製造原価	()			
合 計	()			
3. 月末製品棚卸高	()		()	
売上総利益			()	
III 販売費および一般管理費			33,600	
営業利益			()	

HINT

次の手順で解答する。

1. 完成品原価、月末仕掛品原価を計算し、原価計算表に記入する。
2. 製品勘定をイメージし、月初製品原価、完成品原価をもとに売上原価、月末製品原価を計算し、損益計算書に記入する。

⑤⑥ 単純総合原価計算 (減 損)

テキスト▶P.74

解答・解説▶P.177

(A) 正常減損が工程終点で発生したと仮定した場合

総合原価計算表			
平均法	(単位：円)		
摘 要	直接材料費	加 工 費	合 計
月初仕掛品	145,000	90,100	
当 月 投 入	479,000	967,900	
合 計			
月末仕掛品			
完 成 品			

完成品単位原価 @ _____ 円

(B) 正常減損が工程始点で発生したと仮定した場合

平均法	総合原価計算表			(単位：円)
摘要	直接材料費	加工費	合計	
月初仕掛品	145,000	90,100		
当月投入	479,000	875,900		
合計				
月末仕掛品				
完成品				

完成品単位原価 @ _____ 円

57 単純総合原価計算（減損）

テキスト▶P.74

解答・解説▶P.180

月末仕掛品原価

 円

完成品総合原価

 円

58 単純総合原価計算（減損）

テキスト▶P.74

解答・解説▶P.181

仕掛品		製品	
前月繰越	401,800	製	品
材	料	次	月
加	工	繰	越
費			
-----		-----	

59 単純総合原価計算（仕 損）

テキスト▶P.75

解答・解説▶P.182

平均法	総合原価計算表			(単位：円)
摘 要	直接材料費	加工費	合 計	
月初仕掛品				
当月投入				
合 計				
月末仕掛品				
差 引				
仕 損 品				
完 成 品				

完成品単位原価 @ 円

仕 掛 品

前月繰越	65,350	製 品
材 料		仕 損 品
加 工 費		次 月 繰 越

HINT

仕損の発生点が終点であるため、正常仕損費を完成品のみに負担させる。
 また、仕損品評価額は、月末仕掛品原価を計算した後に、完成品原価（直接材料費）から控除する。

60 工程別総合原価計算

テキスト▶P.78

解答・解説▶P.184

工程別総合原価計算表

(単位：円)

	第 1 工 程			第 2 工 程		
	原 料 費	加 工 費	合 計	前工程費	加 工 費	合 計
月初仕掛品原価	121,100	95,900	217,000	153,100	37,400	190,500
当月製造費用	536,400	846,000	1,382,400		1,387,000	
合 計	657,500	941,900	1,599,400		1,424,400	
月末仕掛品原価						
完成品総合原価						
完成品単位原価	@	@	@	@	@	@

第1工程仕掛品

前 月 繰 越	217,000	第2工程仕掛品
材 料		次 月 繰 越
加 工 費		

第2工程仕掛品

前 月 繰 越	190,500	製 品
第1工程仕掛品		次 月 繰 越
加 工 費		

⑥1 工程別総合原価計算（半製品）

テキスト▶P.78 解答・解説▶P.186

工程別総合原価計算表

(単位：円)

	第 1 工 程			第 2 工 程		
	原 料 費	加 工 費	合 計	前工程費	加 工 費	合 計
月初仕掛品原価	48,400	55,440	103,840	107,300	7,700	115,000
当月製造費用	299,600	542,560	842,160		110,000	
合 計	348,000	598,000	946,000		117,700	
月末仕掛品原価						
完成品総合原価						
完成品単位原価	@	@	@	@	@	@

第1工程仕掛品

前 月 繰 越	103,840	第2工程仕掛品
材 料		半 製 品
加 工 費		次 月 繰 越

第2工程仕掛品

前 月 繰 越	115,000	製 品
第1工程仕掛品		次 月 繰 越
加 工 費		

半 製 品

第1工程仕掛品	

HINT

第2工程へ投入される前工程費は、第1工程完成品2,400個のうち、2,200個（第2工程の当月投入）である。第1工程完成品原価の全額が投入されない点に注意すること。

⑥2 工程別総合原価計算（仕 損）

テキスト▶P.79

解答・解説▶P.188

仕掛品—第1工程

月初有高：		次工程振替高：	
原料費	30,000	原料費	()
加工費	18,000	加工費	()
小計	<u>48,000</u>	小計	<u>()</u>
当月製造費用：		月末有高：	
原料費	297,000	原料費	()
加工費	279,000	加工費	()
小計	<u>576,000</u>	小計	<u>()</u>
合計	<u><u>624,000</u></u>	合計	<u><u>()</u></u>

仕掛品—第2工程

月初有高：		当月完成高：	
前工程費	128,400	前工程費	()
加工費	148,800	加工費	()
小計	<u>277,200</u>	小計	<u>()</u>
当月製造費用：		月末有高：	
前工程費	()	前工程費	()
加工費	427,200	加工費	()
小計	<u>()</u>	小計	<u>()</u>
合計	<u><u>()</u></u>	合計	<u><u>()</u></u>

63 組別総合原価計算

テキスト▶P.82 解答・解説▶P.190

解答用紙

平均法	A組—総合原価計算表			(単位：円)
摘 要	直接材料費	加工費	合 計	
月初仕掛品				
当 月 投 入				
合 計				
月末仕掛品				
完 成 品				

完成品単位原価 @ _____ 円

平均法	B組—総合原価計算表			(単位：円)
摘 要	直接材料費	加工費	合 計	
月初仕掛品				
当 月 投 入				
合 計				
月末仕掛品				
完 成 品				

完成品単位原価 @ _____ 円

A製品仕掛品

前 月 繰 越	210,000	A 製 品
材 料		次 月 繰 越
加 工 費		

B製品仕掛品

前 月 繰 越	188,350	B 製 品
材 料		次 月 繰 越
加 工 費		

64 組別総合原価計算

テキスト▶P.82

解答・解説▶P.192

A製品仕掛品

前月繰越	470,140	A製品
材料		次月繰越
加工費		

B製品仕掛品

前月繰越	164,250	B製品
材料		次月繰越
加工費		

HINT

加工費は原料費以外の原価であるため、直接労務費と組間接費の合計額である点に注意すること。

65 組別総合原価計算

テキスト▶P.84

解答・解説▶P.194

組別総合原価計算表

(単位：円)

	X	Y	合計
当月原料費			
当月加工費			
計			
月初仕掛品原価			
合計			
差引：月末仕掛品原価			
完成品原価			
完成品単位原価			

HINT

各組製品の当月加工費予定配賦額（当月製造費用）は次のように計算する。
 加工費予定配賦額→各組製品の実際操業度×予定配賦率

66 等級別総合原価計算

テキスト▶P.87

解答・解説▶P.196

結合原価按分計算表

摘要	1 級 品	2 級 品	合 計
等 価 係 数	1	0.5	
完 成 品 数 量	1,500kg	4,000kg	5,500kg
積 数			
完 成 品 原 価	円	円	円
単 位 原 価	@ 円	@ 円	

仕 掛 品

前 月 繰 越	739,700	1 級 製 品
材 料		2 級 製 品
加 工 費		次 月 繰 越

67 等級別総合原価計算

テキスト▶P.87

解答・解説▶P.197

X製品仕掛品

前 月 繰 越	38,020	X 製 品
材 料		次 月 繰 越
加 工 費		

Y製品仕掛品

前 月 繰 越	4,600	Y 製 品
材 料		次 月 繰 越
加 工 費		

68 等級別総合原価計算

テキスト▶P.88 解答・解説▶P.199

仕 掛 品				(単位：円)
月 初 有 高	()	製 品 K	()	
原 料 費	()	製 品 Y	()	
加 工 費	()	月 末 有 高	()	
	()		()	
	()		()	

HINT

製品K、製品Y合計の完成品総合原価（結合原価）をまず計算し、完成品数量に等価係数を乗じた積数の比によって、結合原価を按分する。

69 等級別総合原価計算

テキスト▶P.89 解答・解説▶P.200

第1工程原価計算表 (単位：円)

摘 要	中 間 製 品 H		
	直接材料費	加 工 費	合 計
月初仕掛品原価	13,080	10,890	23,970
当月製造費用	430,920	633,510	1,064,430
合 計	444,000	644,400	1,088,400
月末仕掛品原価			
完成品総合原価			
完成品単位原価	@	@	@

第2工程原価計算表 (単位：円)

摘 要	製 品 A			製 品 B		
	前工程費	加 工 費	合 計	前工程費	加 工 費	合 計
月初仕掛品原価	100,800	57,600	158,400	40,200	45,240	85,440
当月製造費用						
合 計						
月末仕掛品原価						
完成品総合原価						
完成品単位原価	@	@	@	@	@	@

HINT

- 第2工程の当月投入額を計算する際、次の点に注意すること。
1. 前工程費については、当月投入数量の割合で按分する。
 2. 加工費については、当月加工換算量に等価係数を乗じた積数の比で按分する。

70 標準原価計算

テキスト▶P.94 解答・解説▶P.203

完成品原価	<input type="text"/>	円
月末仕掛品原価	<input type="text"/>	円
月初仕掛品原価	<input type="text"/>	円
直接材料費差異	<input type="text"/>	円 ()
直接労務費差異	<input type="text"/>	円 ()
製造間接費差異	<input type="text"/>	円 ()

71 標準原価計算（仕掛品勘定の記入）

テキスト▶P.94 解答・解説▶P.204

(1) パーシャル・プランの場合

仕 掛 品	
前 月 繰 越 ()	製 品 ()
材 料 ()	製造間接費差異 ()
賃 金 給 料 ()	次 月 繰 越 ()
製 造 間 接 費 ()	/
直接材料費差異 ()	
直接労務費差異 ()	
<u>()</u>	
直接材料費差異	
仕 掛 品 ()	
直接労務費差異	
仕 掛 品 ()	
製造間接費差異	
仕 掛 品 ()	

(2) シングル・プランの場合

仕 掛 品	
前 月 繰 越 ()	製 品 ()
材 料 ()	次 月 繰 越 ()
賃 金 給 料 ()	
製 造 間 接 費 ()	
()	()
直接材料費差異	
	材 料 ()
直接労務費差異	
	賃 金 給 料 ()
製造間接費差異	
製 造 間 接 費 ()	

72 標準原価計算（仕掛品勘定の記入）

テキスト▶P.95

解答・解説▶P.205

仕 掛 品	
前 月 繰 越 ()	製 品 ()
材 料 ()	原 価 差 異 ()
賃 金 給 料 ()	次 月 繰 越 ()
製 造 間 接 費 ()	
()	()

直接材料費差異

直接労務費差異

製造間接費差異

※ () 内には有利差異または不利差異を明示すること。

73 標準原価計算（仕掛品勘定・製品勘定の記入）

テキスト▶P.95 解答・解説▶P.206

仕 掛 品 (単位：円)		製 品 (単位：円)	
月初有高 ()	完 成 品 ()	月初有高 ()	売上原価 ()
直接材料費 ()	原 価 差 異 ()	完 成 品 ()	月 末 有 高 ()
直接労務費 ()	月 末 有 高 ()	()	()
製造間接費 ()			
()	()		

HINT

本問の場合、仕掛品勘定の借方記入額（当月製造費用）は、実際発生額で記帳する。よって、仕掛品勘定の記帳方法は、パーシャル・プランである点に注意すること。また、製品勘定はすべて標準原価で記帳する。

74 標準原価計算（差異分析）

テキスト▶P.101 解答・解説▶P.207

直接材料費	総 差 異	円 ()
	価 格 差 異	円 ()
	数 量 差 異	円 ()
直接労務費	総 差 異	円 ()
	労働賃率差異	円 ()
	労働時間差異	円 ()
製造間接費	総 差 異	円 ()
	予 算 差 異	円 ()
	操 業 度 差 異	円 ()
	能 率 差 異	円 ()

※ () 内については、有利差異または不利差異を明示すること。

75 標準原価計算（差異分析）

テキスト▶P.102 解答・解説▶P.209

(1) 3分法（能率差異は変動費率により計算）による場合

製造間接費	予 算 差 異	円 ()
	操 業 度 差 異	円 ()
	能 率 差 異	円 ()

(2) 4分法による場合

製造間接費	予 算 差 異	円 ()
	操 業 度 差 異	円 ()
	変 動 費 能 率 差 異	円 ()
	固 定 費 能 率 差 異	円 ()

※ () 内については、有利差異または不利差異を明示すること。

76 標準原価計算（差異分析）

テキスト▶P.102 解答・解説▶P.210

直接材料費	総 差 異	円 ()
	価 格 差 異	円 ()
	数 量 差 異	円 ()

※ () 内については、有利差異または不利差異を明示すること。

77 標準原価計算（差異分析）

テキスト▶P.102 解答・解説▶P.211

直接材料費	総 差 異	円 ()
	価 格 差 異	円 ()
	数 量 差 異	円 ()
直接労務費	総 差 異	円 ()
	賃 率 差 異	円 ()
	時 間 差 異	円 ()
製造間接費	総 差 異	円 ()
	予 算 差 異	円 ()
	操 業 度 差 異	円 ()
	能 率 差 異	円 ()

※ () 内については、有利差異または不利差異を明示すること。

78 標準原価計算（差異分析）

テキスト▶P.103 解答・解説▶P.213

問1	総 差 異=	円 ()
	材料数量差異=	円 ()
	材料価格差異=	円 ()
問2	総 差 異=	円 ()
	労働時間差異=	円 ()
	労働賃率差異=	円 ()
問3	総 差 異=	円 ()
	予 算 差 異=	円 ()
	能 率 差 異=	円 ()
	操 業 度 差 異=	円 ()

HINT

差異分析を行う場合には差異分析図を作成して解答するように心がけよう。また、本問の場合、月初仕掛品、月末仕掛品が存在しないため当月投入数量および当月加工換算量は完成品数量（換算量）と同じになる。

79 標準原価計算（差異分析）

テキスト▶P.104 解答・解説▶P.215

問1	総 差 異=	円 ()
	材料数量差異=	円 ()
	材料価格差異=	円 ()
問2	総 差 異=	円 ()
	労働時間差異=	円 ()
	労働賃率差異=	円 ()
問3	総 差 異=	円 ()
	予 算 差 異=	円 ()
	変動費能率差異=	円 ()
	固定費能率差異=	円 ()
	操 業 度 差 異=	円 ()

HINT

基準操業度は、予定生産量を意味する。本問の場合、基準操業度は次のように計算する。
 基準操業度＝予定生産量×製品1単位あたりの標準操業度

80 標準個別原価計算（仕掛品勘定の記入・材料購入価格差異）

問1

テキスト▶P.104 解答・解説▶P.216

仕 掛 品		(単位：円)	
直接材料費	()	完成品原価	()
直接労務費	()	月末仕掛品原価	()
製造間接費	()		
	<u>()</u>		<u>()</u>

問2 () 内は、不利差異なら「借」、有利差異なら「貸」と明示すること。

材料購入価格差異	円 ()
----------	-------

	製造指図書No.101	製造指図書No.102	合 計
材料消費数量差異	円 ()	円 ()	円 ()



HINT

問1 製造指図書ごとに生産データをまとめてから計算する。また、製造指図書別原価計算表を作成すると、仕掛品勘定が容易に記入できる。

問2 材料購入価格差異は、次のように計算する。

材料購入価格差異 = 実際購入数量 × (標準価格 - 実際価格)

81 標準原価計算における仕訳

テキスト▶P.105 解答・解説▶P.219

【シングル・プランで記帳している場合】

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				

【パーシャル・プランで記帳している場合】

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				

82 損益分岐分析

テキスト▶P.110 解答・解説▶P.219

(1) 損益分岐点の売上高、販売量

売上高 円 販売量 個

(2) 希望営業利益1,260,000円を獲得する売上高、販売量

売上高 円 販売量 個

(3) 希望営業利益率16%を達成する売上高

売上高 円

83 安全率・損益分岐点比率

テキスト▶P.110 解答・解説▶P.220

安全率 % 損益分岐点比率 %

84 原価分解

テキスト▶P.110 解答・解説▶P.220

変動費率 @ 円 月間固定費 円

7月の原価発生予想額 円

85 損益分岐分析

テキスト▶P.111 解答・解説▶P.220

売上高 円 販売量 台

86 損益分岐分析

テキスト▶P.111 解答・解説▶P.221

①		②		③	
④		⑤		⑥	
⑦		⑧		⑨	

HINT

- (1) 本問を解答する際、初めに原価分解を行う。
- (2) 本問は貢献利益率（1－変動費率）を計算することがポイントである。

87 直接原価計算（損益計算書作成・固定費調整）

テキスト▶P.115 解答・解説▶P.222

(1) 全部原価計算方式の損益計算書 (単位：千円) (2) 直接原価計算方式の損益計算書 (単位：千円)

I 売上高	()	I 売上高	()
II 売上原価		II 変動売上原価	
1. 期首製品棚卸高	()	1. 期首製品棚卸高	()
2. 当期製品製造原価	()	2. 当期製品製造原価	()
合計	()	合計	()
3. 期末製品棚卸高	() ()	3. 期末製品棚卸高	() ()
売上総利益	()	変動製造マージン	()
III 販売費および一般管理費		III 変動販売費	()
1. 販売費	()	貢献利益	()
2. 一般管理費	() ()	IV 固定費	
営業利益	()	1. 加工費	()
		2. 販売費	()
		3. 一般管理費	() ()
		営業利益	()

(3) 固定費調整 (単位：千円)

直接原価計算方式の営業利益	()
期末棚卸資産固定加工費	()
小計	()
期首棚卸資産固定加工費	()
全部原価計算方式の営業利益	()

88 直接原価計算（損益計算書作成・損益分岐分析）

テキスト▶P.116 解答・解説▶P.224

(A) 全部原価計算方式の損益計算書（単位：円） (B) 直接原価計算方式の損益計算書（単位：円）

I 売 上 高	()	I 売 上 高	()
II 売 上 原 価	()	II 変 動 費	()
売 上 総 利 益	()	貢 献 利 益	()
III 販 売 費 お よ び 一 般 管 理 費	()	III 固 定 費	()
営 業 利 益	()	営 業 利 益	()

(C) 損益分岐点の売上高および売上量

売上高 円 売上量 個

(D) 希望営業利益1,134,000円を獲得するための売上高および売上量

売上高 円 売上量 個

89 直接原価計算（損益計算書作成・固定費調整）

テキスト▶P.116 解答・解説▶P.226

全部原価計算方式の損益計算書（単位：万円）

I 売上高		()
II 売上原価		
1. 月初製品棚卸高	()	
2. 当月製品製造原価	()	
合計	()	
3. 月末製品棚卸高	()	
差引	()	
4. 原価差異	()	()
売上総利益		()
III 販売費および一般管理費		()
営業利益		()

直接原価計算方式の損益計算書（単位：万円）

I 売上高		()
II 変動売上原価		
1. 月初製品棚卸高	()	
2. 当月製品製造原価	()	
合計	()	
3. 月末製品棚卸高	()	
差引	()	
4. 原価差異	()	()
変動製造マージン		()
III 変動販売費		()
貢献利益		()
IV 固定費		
1. 固定製造原価	()	
2. 固定販売費・一般管理費	()	()
営業利益（直接原価計算）		()
V 固定費調整		
月末棚卸資産固定製造原価		()
月初棚卸資産固定製造原価		()
営業利益（全部原価計算）		()

90 直接原価計算（損益計算書作成・固定費調整）

テキスト▶P.117 解答・解説▶P.229

全部原価計算方式の損益計算書 (単位：万円)

I	売上高		()
II	売上原価		
	1. 月初製品棚卸高	()	
	2. 当月製品製造原価	()	
	合計	()	
	3. 月末製品棚卸高	()	
	差引	()	
	4. 原価差異	()	()
	売上総利益		()
III	販売費および一般管理費		()
	営業利益		()

直接原価計算方式の損益計算書 (単位：万円)

I	売上高		()
II	変動売上原価		
	1. 月初製品棚卸高	()	
	2. 当月製品製造原価	()	
	合計	()	
	3. 月末製品棚卸高	()	
	差引	()	
	4. 原価差異	()	()
	変動製造マージン		()
III	変動販売費		()
	貢献利益		()
IV	固定費		
	1. 固定製造原価	()	
	2. 固定販売費・一般管理費	()	()
	営業利益(直接原価計算)		()
V	固定費調整		
	月末棚卸資産固定製造原価	()	
	月初棚卸資産固定製造原価	()	
	営業利益(全部原価計算)		()

 HINT

製品原価を計算する際、製造間接費は予定配賦している点に注意すること。なお、直接原価計算を採用している場合、変動製造間接費のみを予定配賦するので原価差異は変動費部分のみ生じる。

91 直接原価計算（3期間・損益計算書作成）

問1

テキスト▶P.118 解答・解説▶P.232

損益計算書（全部原価計算）

（単位：円）

	第 1 期	第 2 期	第 3 期
売上高	()	()	()
売上原価	()	()	()
売上総利益	()	()	()
販売費・一般管理費	()	()	()
営業利益	()	()	()

損益計算書（直接原価計算）

（単位：円）

	第 1 期	第 2 期	第 3 期
売上高	()	()	()
変動費	()	()	()
貢献利益（限界利益）	()	()	()
固定費	()	()	()
営業利益	()	()	()

問2

期首棚卸資産固定製造原価 円期末棚卸資産固定製造原価 円 HINT

本問では、各期ごとに生産データ、販売データをまとめるとよい。
また、製造間接費を実際配賦しているので製品1単位あたりの固定製造原価は各期異なる点に注意すること。

92 直接原価計算（3期間・損益計算書作成）

テキスト▶P.119 解答・解説▶P.235

損益計算書（全部原価計算）		（単位：円）		
	第 1 期	第 2 期	第 3 期	
売上高	()	()	()	
売上原価	()	()	()	
原価差異	()	()	()	
計	()	()	()	
売上総利益	()	()	()	
販売費・一般管理費	()	()	()	
営業利益	()	()	()	

損益計算書（直接原価計算）		（単位：円）		
	第 1 期	第 2 期	第 3 期	
売上高	()	()	()	
変動売上原価	()	()	()	
変動製造マージン	()	()	()	
変動販売費	()	()	()	
貢献利益（限界利益）	()	()	()	
固定費	()	()	()	
営業利益	()	()	()	

HINT

本問では、各期ごとに生産データ、販売データをまとめるとよい。
 また、製造間接費を予定配賦しているため原価差異が生じるが、全部原価計算と直接原価計算では原価差異の範囲が異なるので注意すること。

93 工場会計の独立

テキスト▶P.122 解答・解説▶P.237

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				

94 工場会計の独立 (内部販売)

テキスト▶P.122 解答・解説▶P.238

問1

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				
(8)				

問2 内部利益 円

HINT

問1 (8) 本問は、工場から製品を本社に搬送する際、製造原価に10%の利益を加算している。このことから本社に対し、内部販売している。この際の内部売上高は、次のように計算する。
 内部売上高=納入した製品の製造原価 (内部売上原価)×(100%+10%)